

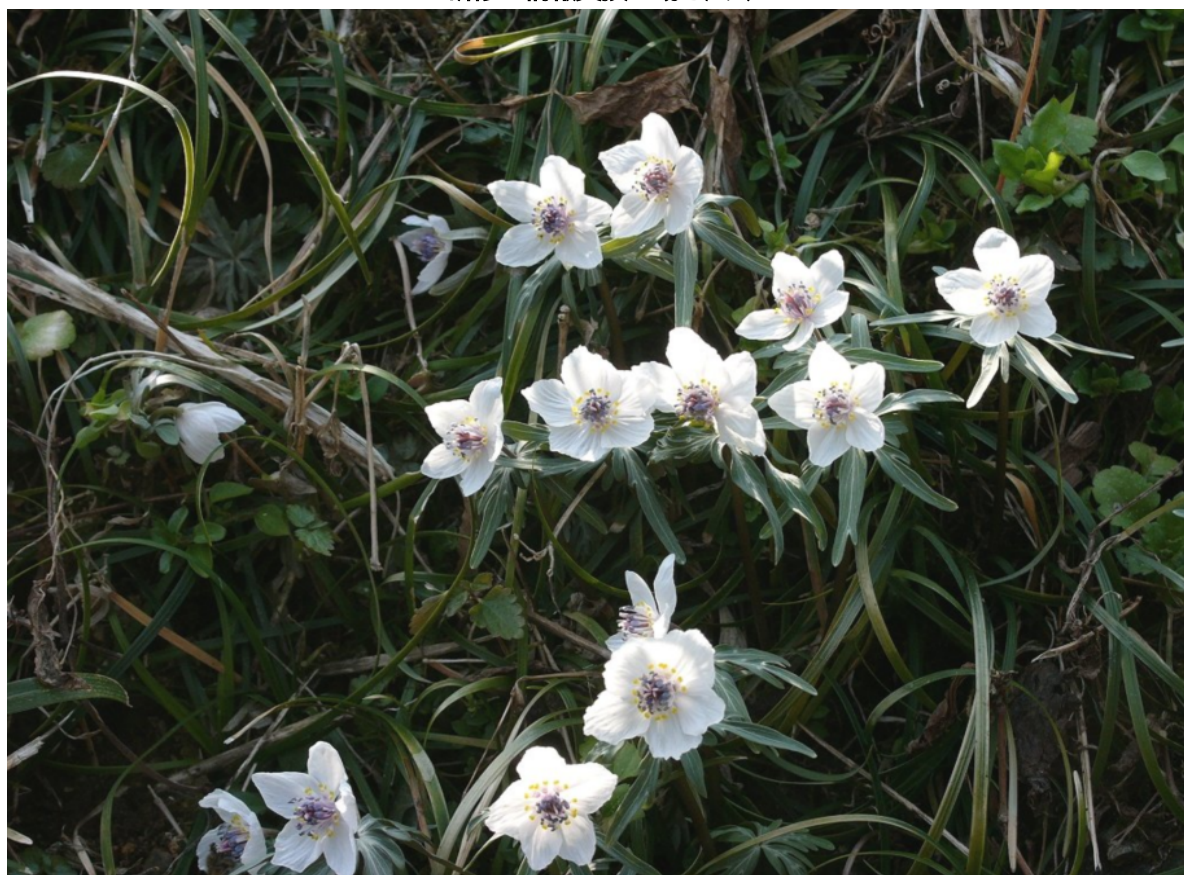
グリーンニュース 第42号

発行年月日 平成 22年 3月 25日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・



セツブンソウ（節分草）の花です。

カタクリやフクジュソウなどと共にスプリング・エフェメラル（春の儂いもの、春の妖精）

と呼ばれる早春に咲く儂い感じの花で、石灰岩の多い地質の所を好みます。

ご多分に漏れず乱獲により群生地は少なくなっているそうです。

（広報副部長 田中和夫）

インターネットで **環境アドバイザー** を 検索！



環境アドバイザー、271名登録 (平成22年2月26日現在)

今年度4月より、第8期県環境アドバイザー登録制度(登録期間:平成21年4月1日～平成23年3月3日)が開始となりましたが、平成22年2月26日現在、271名の方の登録をいただいております。各地域で活躍されています。

今年度も残りわずかとなりましたが、環境アドバイザー事業にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

県では随時、第8期の環境アドバイザーを募集しています。周りの方にもこの制度についてお話しいただき、環境活動に取り組んでいただける方々に紹介していただければ幸いです。

また登録の方法についてもお話ししてください。登録は、「環境アドバイザー募集チラシ」の登録用紙を郵送またはFAXで。申請用紙については、群馬県ホームページ(http://www.pref.gunma.jp/cts/contents?CONTENTS_ID=34249)からダウンロード可能です。また、群馬県ホームページの「ぐんま電子申請等受付システム」からも登録できます。

第14回群馬県子どもエコクラブ交流会開催

1月23日(土)に第14回子どもエコクラブ交流会が、県内の9クラブ、総勢153名の参加により開催されました。県内子どもエコクラブによるステージでの活動発表や壁新聞展示・体験ブース展示のほか、群馬県環境サポートセンターの環境体験ブース展示、ぐんま天文台の大林均先生による科学工作ブース展示や科学実験教室を行われました。この交流会を通して、子どもたちが、環境についてあらためて学び、これからの環境活動に向け、楽しく学習しました。

子どもエコクラブは、幼児から高校生の2人以上と活動を支える大人(サポーター)がいればだれでも参加できる環境省、県、市町村が支援する環境活動クラブです。県内には、現在46クラブ3,279名が登録されており、322名のサポーターと呼ばれる大人に支えられながら、学習会や環境調査、生物調査、農業体験、清掃活動など、環境に関する活動に自主的に取り組んでいます。

環境アドバイザーの方におかれましても地域や家族などでクラブを作ってください、ポーターとなって活躍いただければと思います。募集は、随時で一年ごとの更新となります。詳しいことは、環境政策課(電話 027-226-2821)まで。



クラブによる活動発表の様子

『レジ袋無料配布中止運動』

黄信号と今後の対応



平成21年12月19日(土)付の上毛新聞の一面に掲載されたように、今般この運動は視界不良、黄信号に入ってしまった。

その原因は、掲載前日の12月18日に行われた『群馬県レジ袋削減推進協議会』の席上で、県内スーパーマーケット最大手の“フレッセイ”から、「共にスタートから協定書を結び、一斉実施を目指していた事業者の中で、この協定に不参加が数社あるとのこと。このような状況下では、4月1日からの一斉スタートの参加は見合わせたい。」との発言がありました。

フレッセイは県内で40店舗を持つ県内屈指のスーパーマーケットであり、フレッセイの参加は、運動一斉実施の絶対条件でした。県関係者をはじめ、出席者は皆当惑してしまいました。

しかし、“フレッセイ”は平成12年から群馬県が実施しているマイバッグキャンペーンでは、“コープぐんま”とともに、中心的役割を果たしてくれている会社です。またマイバスケットの活用・推進にも積極的で、レジ袋削減への社会的貢献は大なる会社です。

そこで改めて、考え方を前向きに変えて、フレッセイが再度レジ袋削減運動のオピニオンリーダーになってくれるよう、再度、鈴木は環境アドバイザーを代表し、レジ袋削減推進協議会委員の一人として、県当局にお願いするとともに、動いてみたいと思います。

経済情勢が厳しく、すべてのスーパーマーケットの存続自体が問われている昨今です。しかし皆が『後出しジャンケン』では環境問題をはじめ、多くの課題は解決出来ないと思います。県当局もスタート時は多少遅れても、当事業(運動)は進めたいと明言しています。

『レジ袋を辞退すると2円戻します』という“キャッシュバックシステム”も昨今展開されつつあります。このような現状も認識され、今後の推移を見守ってください。皆様のご理解とご協力をお願いします。

(環境アドバイザー連絡協議会 代表 鈴木克彬)

春のエコウォーク in 箕郷

にご参加下さい

部会では、ここ数年、菜の花プロジェクトを県内に広める活動をしてきたところです。

菜の花PJは、菜の花栽培～廃食油の回収～BDF精製というサイクルのなかで、CO2の発生量を抑えることはもちろん、地域づくりや子供たちの食育活動にも結びつける多面的な要素がありました。

ただ、菜の花栽培については、除草や収穫作業などで人手を必要とし、農機具の確保ができないグループでは、これ以上、栽培面積を増やすことは難しいと思います。

そこで見直されてきているのが、油の活用です。これまでは菜種油は揚げ物用としての利用が中心でしたが、これを食用オイルなど新たな利用方法を見つけることです。

すでに、長野県のNPO法人地域づくり工房が、「菜種オイルソムリエ」の育成を始め、食べる菜種オイルとして様々な用途に応用できる研究を始めました。利用方法の幅を広げることによって消費者にも菜の花に目を向けさせ、栽培の拡大に協力してもらおうということです。

群馬でも、4月5日、高崎地区会のメンバーが中心となり「春のエコウォーク in 箕郷」の計画をたてました。菜種油の利用について飲食店とタイアップできないか、という提案から始まり、春の花を見ながらのエコウォーキングとなりました。もちろん昼食には、菜種油を使った食事もあります、ぜひご参加下さい。(詳細はP8に載っています。)

(温暖化・エネルギー部会長 小川 仁司)

高山村から早春の便り

「大寒も過ぎ名残雪が時折舞う、作今如何お過ごしですか」表題の通り高山村共有林組合長平形氏から想定外の嬉しい一報が入りました。

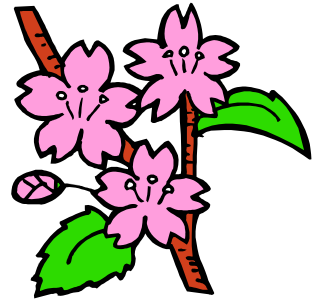
環境アドバイザーの皆さんの熱心な活動に答えるため「コナラ」の苗木(30～50 cm)100株を用意し共に交流と作業が出来れば……との申し入れを受けました。

早速現地に向かい一面の雪景色、気温0度そして約10年前、共有林の方々が植えた「さくら」「くりの木」昨年私達が植えた、かわいい苗木、雑草と葛のつる、の少なくなった林、山々の雪に囲まれた美しい眺め、まるでみんなの参加を待ってるように感じました。

これ迄の協働と今後の活動したいで、この場所が地元のみなさんに喜ばれ「たかやま交流の森」(仮称)として親しまれるように進めてゆければ、新しい勇気がさらに大きくなり試行から本格的なエコ運動が期待できそうです。

(自然環境部会長 宮崎 亮二)

ごみ部会活動報告



今期のごみ部会は「レジ袋無料配布中止」に関し、環境アドバイザー（特に部会）として、どのようにこれを推進していくことが出来るかについてを中心議題として運営して参りました。

部会での討議経過においては、有料化になること自体は賛成であり、その収益の一部を何らかの形で基金化し県の環境行政（特に森林保護や環境教育）に役立てて欲しい旨の提案も行ってまいりました。

しかしながら昨年12月の「協議会」において、地元大手食品系スーパーの不参加ということから、現時点では実施に関しては見通しが立てにくい状況になっています。

3月にはサンデン赤城事業所の見学を予定しています。事業者の環境への取り組みや事業系廃棄物の分別などを実地に見せて頂き、新しい知識を得る場としたいと思っています。これは環境アドバイザーであれば、どなたでも参加できますので、ぜひ沢山の方のご参加をお待ちいたします（詳細はp8に載っています、また追ってお知らせいたします。）

また新年度に向けては、このレジ袋無償配布中止の方向性を見ながら同案件に取り組むとともに、地域におけるゴミ対策への取り組み事例の発表会や有識者をお招きしての講演会などを企画しております。

（ごみ部会部会長 須永 徹）

広報部会の活動とお願い

広報部の主な活動は皆さんお分かりのように、グリーンニュース(GN)、とインターネット・ホームページです。GNは今回で42号の発行となりました。

読みやすく、分かりやすい会報誌として毎回工夫して、原稿の配置をしています。

ただ、原稿も皆さん代表、部長が出す原稿が多く、広く会員のみなさんが自由に掲載できるよう門戸を広くしています。

地域での活動、環境の講演会やイベントに参加したことなど、なんでもどしどしお送りください。（会報は会員みんなの知恵の袋です）

現在地域の役員として、前橋10名、渋川2名、伊勢崎5名、高崎10名、安中4名、藤岡2名、富岡4名、吾妻2名、利根沼田2名、太田5名、桐生3名、みどり4名、館林2名が幹事として県に登録してあります。

この各地域の世話役が1名いますが、みどり、館林、はまだ決まっていません。

広報部も今までは書記、地域の幹事さん個人に原稿をお願いしてきましたが、今年度より地域の世話役さんを通していきます。

高崎、利根沼田は原稿を出して頂きました。その他の地域の方々にも随時お願いして行きますので、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

（広報部会部会長 原田 邦昭）

ネットワーク化で、持続可能な社会の構築と住みよい町づくりを推進

沼田市においては、協働が求められている背景にある少子高齢化をはじめ行政の限界、環境問題等々の課題解決を効果的に進めるための核となる組織が相次いで構築された。

その一つは、昨年4月、市内の環境団体をネットワーク化した「ぬまた環境ネット」(以下、環境ネット)の設立である。環境ネットは環境問題に対して主体的に取り組む団体が連携し、相互に支援し合い、情報の共有や活動の調整を図ることにより、さらに環境活動の取り組みを広め、豊かな水と緑に包まれた沼田市の環境像を実現させることを目的としている。

現在、当連絡協議会をはじめ尾瀬高校や利根実業高校など16団体が加入。初年度の活動として、柳葉まつりでの廃食用油回収の周知や玉原高原においてブナ幼木移植作業、12月には環境フォーラムを開催、講演会や加入団体が活動事例を発表した。

「利根沼田明るい社会づくりの会」は、ノーレジ袋運動の取り組みをパネルにまとめ会場に掲示した。昨年は9月1日から3か月間にわたり、スーパーや小売店など32店の協力を得て「ノーレジ袋キャンペーン」を展開した。1枚のカードに10個スタンプを押してもらうと、抽選に応募できるという仕組みで、前年比19%増の20,252枚の応募があった。利根沼田地域のおよそ4人に一人が応募したことになり、レジ袋を202,520枚削減するという大きな成果を上げた。これによりドラム缶42本分の石油とごみ処理費の節約につながり、CO2排出量削減にも貢献できたと総括している。

当会は「一人の100歩よりも100人の一歩」という活動によりマイ・バックや買い物かご持参が広まってきている。この取り組みの成果がレジ袋有料化に結びつくことを願っていると語っていた。

二つ目は今年1月に、ボランティア活動や地域活動の支援、団体間交流、情報発信などや協働のまちづくりを進めるための拠点施設として、沼田市市民活動センター「ホッとステーションぬまたん家(ち)」を開設した。当協議会も一番に参加団体登録を行い、自組織専用のメールボックスや講演会などのチラシを置ける情報提供コーナーを大いに活用している。ぬまたん家(ち)には、印刷機などの設備も整っており、ちょっとした打ち合わせスペースもあってたいへん重宝している。

民間の活動組織としてNPO法人利根沼田地域ボランティアセンターがある。それぞれの組織の特性を活かし、協働のよきパートナーとして、未来の子供たちのために持続可能な社会の構築はもとより住みよい町であり続けるための取り組みが各方面から期待されている。

(環境アドバイザー利根沼田連絡協議会代表 角田 和男)

【南橋地区地域づくり推進協議会がストップ温暖化大作戦全国大会に！】

南橋地区では、南橋地区地域づくり推進協議会が中心となり、地域を挙げて環境問題に取り組んできた。今年度は、その活動が評価され、環境省主催の「一村一品知恵の輪づくり事業」の「ストップ温暖化大作戦」において、群馬県代表として2月に東京で行われる全国大会に出場した。

【ごみ減量リサイクルで環境にやさしい地域に】

各町にリサイクル庫を設置し有価物の回収に努めるとともに、毎年、有価物回収コンクールも実施している。また、廃食用油の回収も実施しており、加工したBDF（BioDieselFuel）（バイオディーゼル）燃料は清掃車等に利用されている。

不用品の交換会も盛んで、毎年、春と秋に行われる「衣料等交換会」では毎回1000kgを超える衣料品が集まり、それぞれ再利用されている。これらを使用してのリフォームファッションショーは好評である。

【南橋の自然を守ろう】

赤城白川の自然を守るため、河川の清掃活動を実施し、ほたるが飛び交う環境を守っている。また、地区の北部にある橋山を整備しヤマザクラ130本を植樹。毎年、地元の中学生も課外授業で協力し、除草作業や巣箱の取り付けなどを行っている。地元住民と中学生が交流するなかで、自然を大切にすることを育んでいる。

【花・緑いっぱいの南橋地区に】

地元に伝わる伝統野菜「田口菜（菜の花）」を、「南橋エコクラブ」の子どもたちも交え、種蒔きから収穫まで行っている。花を楽しみ、摘み菜を食し、種からは油を搾る。なお、廃油は回収しBDFとしている。

また、各町内で花いっぱい運動コンクールを実施し、街角花壇づくりなど、緑いっぱいの歩いても楽しいまちづくりを目指す。

【思いやり・助け合いあふれる地域に】

高齢者が元気で生きがいを持って生活できるよう、各町に「ふれあい・いきいきサロン」を開設している。また、一人暮らしの高齢者のために、会食会や配食サービスを実施している。



廃食用油の回収



不用品交換会



赤城白川の清掃



橋山：中学生による巣箱の取付け



田口菜の摘み菜



田口菜プロジェクト

天然ガス (組成)

天然ガスにはメタン・エタン・プロパン・ブタン・ペンタン以上の炭素化合物や窒素が含まれ、産出する場所によってその割合は少しずつ異なる。

産地による成分の違いの例(単位は%)

産地	メタン	エタン	プロパン	ブタン	ペンタン	窒素
ケナイ(アラスカ)	99.81	0.07	0	0	0	0.12
ルムート(ブルネイ)	89.83	5.89	2.92	1.30	0.04	0.02
ダス(アブダビ)	82.07	15.86	1.86	0.13	0	0.05

これらの他に不純物として、水・炭酸ガス・硫黄酸化物・硫化水素などを含む。例外的に北アメリカ産・アルジェリア産の天然ガスには1-7%ものヘリウムが含まれており、世界の数少ないヘリウムの供給源となっている。

特性

揮発性が高く常温では急速に蒸発し、空気よりも軽いため大気中に拡散する。この点では、常温で空気より重く低い場所に滞留しやすいプロパンやブタンガスに比べれば安全性が高いといえる。

各部会・地域・活動の予定



部会	内 容	月/日	時 間	申し込み ×切	(担当) 問合せ先
自 然	高山村の早春へ(高山村)	4月下旬	後日決定		(宮崎亮二)080-5019-3820
温暖化	「春のエコウオーク」(高崎、箕郷)	4月5日(月)	9:00~16:00	3月20日 (先着20名)	(生方輝亘)027-373-1905
ご み	サンデン赤城事業所見学(前橋市)	3月24日(水)	13:30~15:30	3月19日	(須永徹)090-3498-1771
広 報	43号GN会議(前橋サポートセンター)	5月11日(火)	13:30~15:30		(原田邦昭)027-344-6088

次回(43号) 2010年6月発行予定 (原稿×切5月25日)